

病気の治療を受けながら働いて、ローンの返済をしたい
障がいがある高齢者からの相談

■人権キーワード

高齢者、障がい者

■相談の主訴

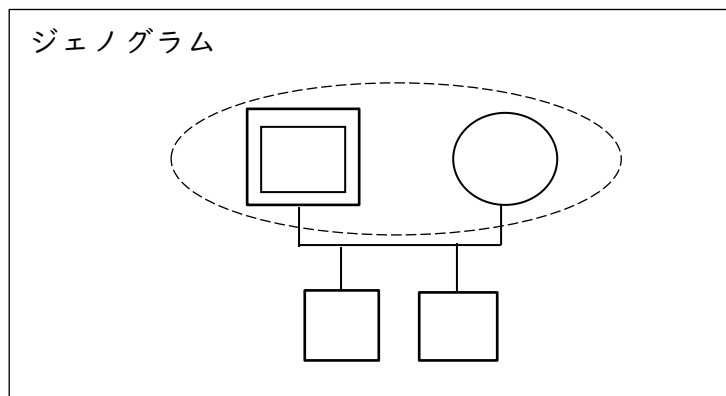
長年働いてきた会社を退職となったが、まだ家のローンが残っている。病気の治療を受けながら働いて、ローンの返済をしたいという障がいがある高齢者からの相談

■相談者

- ・ 相談者は高齢者2人世帯
- ・ 病気により透析治療をしており、身体障害者手帳を所持している。
- ・ マンションのローンの返済が数年残っており、ローンを払い続けるには収入の確保が必要である。

■家族状況

- ・ 2人の息子がいて、それぞれ独立している。



■相談に至った経緯

- ・ 仕事探しをしている中で暮らしのガイドで就労支援センターを見つけて来所された。

■相談内容・相談者の状況等

- ・ 相談者は長年親戚が経営する会社で働いていたが、会社の都合により退職となり仕事探しのために就労支援センターに来られた。
- ・ 社会保険等に関する知識がなく、資格も持っていない様子で、失業した際の失業手当はなく、無年金で障害年金もない。

- ・ 妻の収入と年金を合わせて月十数万円程度ある。家計については妻が貯えを崩しながら支えている状況で妻に任せている。
- ・ 以前の職場の近くでは働きたくない様子であった。
- ・ 電車通勤の経験がなく、電車に乗ることへの不安が大きいため自転車での通勤を強く希望されていた。
- ・ 生活保護や住居確保給付金を申請したが、マンションが持ち家になるため却下されている。

■対応

- ・ 年齢的に A 型事業所の利用は不可でハローワークに同行した。ハローワークの一般窓口では障がい窓口を進められ、障がい窓口では仕事を新聞広告等で探すことを勧められた。
- ・ 生活支援課の生活困窮者支援窓口での面談に同席した。
その窓口の就労支援もあるのでマッチングしてもらうことをねらって求人開拓員に相談した。
- ・ 就労支援センターで履歴書作成や面接対策の支援を行った。コミュニケーションをとるときは相談者が必ず理解できる言葉を使ったり、相談者が話す言葉と同じ言葉を使うようにしたり丁寧にお話をした。

■評価および今後の課題

- ・ 生活困窮者支援窓口と連携し、求人開拓や面接同行の結果、これまでの経験を活かせるパート就労が決まり働くことができるようになった。
- ・ 6 か月後に定着確認をしたところ就労継続ができていて楽しそうに働かれている様子だった。
- ・ 働いて動くことに喜びを感じておられるようなので色んな選択肢を示せたらよかった。
- ・ 家を持っていることに強いこだわりがあると考えられるが、ローンを払い続け持ち家になった後に生活保護受給の為に家を手放す可能性もあることが課題になる。

■連携が想定される資源・利用が想定されるサービス等

- ・ 市町村の福祉事務所、障がい福祉担当部署
- ・ 市町村の介護保険担当部署
- ・ 市町村の生活困窮者自立支援窓口（生活困窮者自立支援事業）
- ・ 基幹相談支援センター
- ・ 地域包括支援センター
- ・ 包括的相談支援窓口（重層的支援体制整備事業）
- ・ 介護支援専門員（ケアマネジャー）
- ・ コミュニティソーシャルワーカー（CSW）

- ・ 大阪府内の地域就労支援センター
- ・ シルバー人材センター
- ・ ハローワーク（公共職業安定所）